

教育経営の充実に関するグループ

○活動報告

○資料

- 1 名寄市教育推進計画と直結した学校経営計画の作成
- 2 新学校経営計画に基づいた新学年経営計画の作成
- 3 社会に開かれた教育課程の具体的取組

○顛末

- 第1回顛末
- 第2回顛末
- 第3回顛末
- 第4回顛末

名寄市教育改善プロジェクト委員会

令和5年度 教育経営の充実に関する研究グループ活動報告

1 教育経営グループ組織

グループ主任	小林 勝彦	名寄東中学校 校長
副主任	軽部 恭子	名寄西小学校 校長
研究主任	長井 香征	名寄小学校 教頭
研究副主任	小林 良光	智恵文小学校 教頭
研究委員	松本 敏朗	中名寄小学校 校長
	西岡 裕英	智恵文中学校 校長

2 研究内容

研究項目	分担
【重点】 新名寄版学校経営計画作成とCSの推進及び充実 1 学校経営計画に係る事業の推進 (1) 名寄市学校教育推進計画と直結した学校経営計画の作成 (2) 社会に開かれた教育課程の具体的取組	○すべての業務をグループ全体で取り組む

3 今年度の活動経過

年	月	日	主な内容	備考
5	5	15	<input type="checkbox"/> 第1回教育改善プロジェクト委員会全体会議 <input checked="" type="checkbox"/> 第1回教育改善プロジェクト委員会グループ会議 今年度の研究内容・計画等について確認 年間活動計画の検討 新学校経営計画改善点の検討	名寄市文化センター 営農研修室
	6	26	<input checked="" type="checkbox"/> 第2回教育改善プロジェクト委員会グループ会議 新学校経営計画フォーマットの検討 新学校経営計画記載例の作成計画 社会に開かれた教育課程の具体的取組の情報収集計画	名寄西小学校
	9	11	<input checked="" type="checkbox"/> 第3回教育改善プロジェクト委員会グループ会議 新学校経営計画フォーマットの検討 新学校経営計画記載例の検討 新学年経営案フォーマットの作成計画 社会に開かれた教育課程の具体的取組の交流	名寄西小学校

	11	10	□名寄市教育研究大会	名寄東小学校 風連中学校
	11	17	○第4回教育改善プロジェクト委員会グループ会議 (学校力向上に関する総合実践事業 名寄市地域協議会) 新学年経営案フォーマットの検討 新学年経営案記載例の検討 新学年経営案フォーマットの意見集約計画	名寄小学校
	11	27	○第4回スクールリーダー研修会での説明(長井) 新学年経営案フォーマットの説明 意見集約方法の説明 意見集約期間(11/27~12/14)	名寄中学校
	12		年間活動のまとめ 成果と課題の確認	書面会議
6	1	23	□名寄市教育研究集会	EN-RAYホール

4 今年度の活動内容

(1) 名寄市学校教育推進計画と直結した学校経営計画の作成 資料1

1) 新学校経営計画フォーマット(資料1)

<改善の視点>

簡潔化及び各校の特色の明確化

<改善点>

巻頭に名寄市学校教育推進計画を掲載

社会の変化に対応し、短期スパンのPDCAの必要性から、中期ビジョンを削除
記載方法の自由度を上げ、各校の特色ある経営方針を表現

記載項目を絞り、重点を明確化

(2) 新学校経営計画に基づいた新学年経営案の作成 資料2

1) 新学校経営計画フォーマット(資料2)

<改善の視点>

新学校経営計画を踏まえた新様式

常に意識して活用する計画(机の上に置いて常に振り返りながら学年経営)

<改善点>

年度末に目指す具体的な子どもの姿をイメージして「学年の教育目標」を記載
後期作成時に、実態を見直して修正(見え消し線で消し、追記を青字で記載)

学校経営案「本年度の重点的な取組」から各1点を絞り、具体的な手立てを記載
学年の達成状況を「○:達成、△:未達成」で評価

教育改善プロジェクト教育研究(研修)グループから意見を聞く機会を設定

(3) 社会に開かれた教育課程の具体的取組 資料3

1) 名寄市内各校の具体的取組 (資料3)

社会と連携・協働した教育活動を充実させるため、グループ内の小・中学校の特色ある取組の情報交流を実施

5 「第3次名寄市教育改善プロジェクト委員会」 ～令和5年度の研究活動における成果と課題～

【成果】

- 現行の学校経営案をベースに改善点を協議し、使いやすさ、わかりやすさに重点を置いたことで、各校の経営の特色や校長の経営ビジョンを表現しやすい形にすることができた。
- 新学年経営案フォーマット作成にあたり、教育改善プロジェクト教育研究（研修）グループから意見を聞く機会を設けたことで、各校のスクールリーダーを協議に交えて作成することができた。
- グループ内の小・中学校の特色ある取組を交流し、社会と連携・協働した教育活動の具体的な取組を共有するとともに、各校で育成を目指す資質・能力にどのように結び付けているかを学ぶことができた。

【課題】

- ▲次年度の学年経営案作成に向けて、目的、作成方法、期日等を確実に教職員に伝えるため、各校の教務主任を対象とした説明会等の実施を検討する必要がある。
- ▲新学校経営計画及び新学年経営案を運用する中で、フォーマットに係る新たな課題を把握し、更なる改善を継続していく必要がある。

I 本校の教育目標

--

【〇〇年改訂】

(教育目標に関する記述事項があれば記述します)

校訓 等

--

(校訓や合い言葉などがあれば記載し、それに関する記述事項があれば記述します)

※中期ビジョンについては、次の理由から、経営計画から削除します。

- ・ 社会の変化のスピードが速いこと
- ・ 短期スパンでPDCAサイクルを回していくことが求められていること

II 経営の基本方針

〇〇〇〇

「名寄市学校教育推進計画」は、全校が参考とすべきものであることから、全ページを最初に掲載することとします。

かわりに、各校の校長の経営への思いを端的に記載します。必要に応じて、説明を記載します。

例) たくましく未来を切り拓く人づくり

III 育成を目指す資質・能力の重点

1 学校として育成したい資質・能力の重点

知識・技能：〇〇〇〇

思考力・判断力・表現力等：〇〇〇〇

主体的に学習に取り組む態度：〇〇〇〇

2 育成を目指す資質・能力の重点と学校の教育目

例) 西小の場合

現行学習指導要領では、育成を目指す資質・能力で一貫して記載されていること、各校で重点を定めることが求められていることから、ここに明記します。
なお、この重点は、毎年変えるものではなく、3年おき程度で見直しを図ることが望ましいものです。

学校の教育目標が、知徳体の場合、この関係を明記しておくことが望ましいと思います。育成を目指す資質・能力の3観点で示している場合は「2」は必要ありません。

よく考え創り出す子 (知)		心豊かに活動する子 (徳)	
知識・技能 〇〇〇〇	思考力・判断力・表現力等 〇〇〇〇	主体的に学習に取り組む態度 〇〇〇〇	
たくましく挑戦する子 (体)			

IV 本年度の学校経営

1 年度の重点教育目標

(1) 地域・保護者の状況

(2) 子どもの状況

各学校の実態に応じて**端的に自由記述**します(文章でも簡条書きでも可)。
※課題を記載することも可。

本年度の重点教育目標

「Ⅲ 1 学校として育成したい資質・能力の重点」を踏まえて目標を設定します(キャッチフレーズでも可。根幹等の記述を加えるのもOK)。

2 本年度の重点的な取組

(1) 教育課程(学習指導)

①○○○○○ <○・○>

②○○○○○

③○○○○○

④○○○○○

⑤○○○○○

(1)～(5)の5つのカテゴリで作成します(文言は各校自由)。
各項目ごとに3～6点程度、取組の重点の具体を記述し、担当分掌も明示します。

例) ①各種調査結果等を活用して授業を改善する。<教・研>

評価基準	評価方法(目標値)
<p>上記①～の取組の重点の具体を踏まえ、評価基準を数点、記述します(数は各校自由)。あわせて、評価方法及び目標値を記述します。 ←評価基準は自校の学校評価その他を記述します。目標値は、数値目標が望ましいです。</p>	

(2) 生徒指導(学年・学級経営)

①○○○○○

②○○○○○

③○○○○○

④○○○○○

⑤○○○○○

評 価 基 準	評価方法(目標値)

- (3) 特別支援教育
- (4) 学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）
- (5) 予算、教育関係整備

V 本校の学校経営の評価

1 本年度の重点的な取組（1）教育課程（学習指導）の自己評価

評価基準	評価方法(目標値)	結果

2 本年度の重点的な取組（1）教育課程（学習指導）の学校関係者評価

自己評価の適切さ	A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である C：やや不適切な評価である D：不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A：十分な効果が期待できる B：ある程度の効果が期待できる C：あまり効果が期待できない D：改善を要する	
【学校関係者の意見等】		

3 本年度の重点的な取組（2）生徒指導（学年・学級経営）の自己評価

4 本年度の重点的な取組（2）生徒指導（学年・学級経営）の学校関係者評価

5 本年度の重点的な取組（3）特別支援教育の自己評価

6 本年度の重点的な取組（3）特別支援教育の学校関係者評価

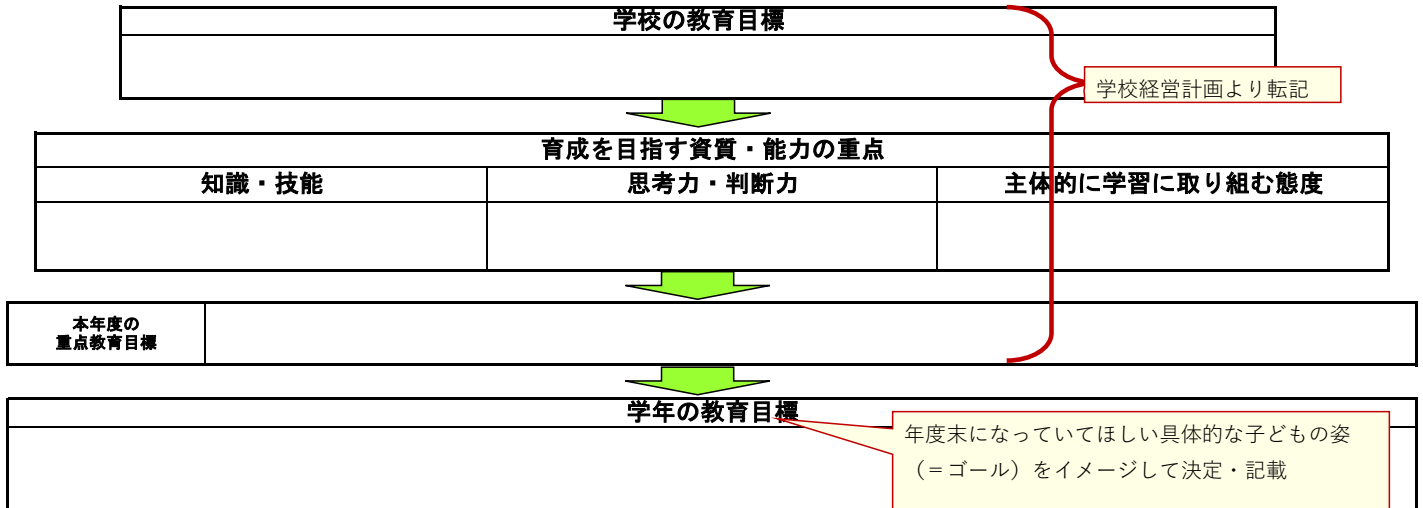
7 本年度の重点的な取組（4）学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）の自己評価

8 本年度の重点的な取組（4）学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）の学校関係者評価

9 本年度の重点的な取組（5）予算、教育関係整備の自己評価

10 本年度の重点的な取組（5）予算、教育関係整備の学校関係者評価

I 学年目標



II 学年の実態

学年の実態を学習・体力・生活面に分けて記載 ・複数学級の場合は、全体的な傾向として記載 ・箇条書き ※後期の作成時に実態を見直して修正をかける →変容が見られて実態が変わった内容は見え消し線 で消し、新しい実態を青字で記載		生活面	
学習面		その他	学年に所属する特別支援学級の児童、その他配慮が必要な児童について必要な情報を記載
体力面			

III 「本年度の重点的な取組」を実現するための「具体的な手立て」とその「成果と課題（改善策）」

		具体的な手立て	達成状況	成果 (○) と課題 (△) 及び改善策 (◇)
(1) 学習指導	前期	学校経営計画の「本年度の重点的な取組」を実現するための具体的な手立てを記載 ※(1)～(5)、それぞれ絶対に達成させたいこと1点に絞り、そのための手立てを記載	→	「具体的な手立て」による学年の達成状況进行评估 ・項目ごとに、○：達成、△：未達成で評価 ・学校評価、学年の評価基準、各種調査等を踏まえて判定 ・複数学級の場合、総合的に判定
	後期			
(2) 生徒指導	前期	後期は、前期の成果 (○) と課題 (△) を踏まえて記載 ※後期に達成させたいこと1点に、そのための手立てを記載	→	達成状況を踏まえ、成果、課題を記載 ・文頭に○：成果、△：課題、◇：改善策を付して記載
	後期			
(3) 特別支援教育	前期		→	
	後期			
(4) 域との連携 保護者・地	前期		→	
	後期			
(5) 環境整備 含む学習規律	前期		→	
	後期			

資料3

(3) 社会に開かれた教育課程の具体的取組

○社会と連携・協働した教育活動例

視 点	教 育 活 動 例
地域人材の活用や交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアによる「読み聞かせ」の実施 ・ 名寄市もち大使によるもちつき体験 ・ 社会福祉協議会や障がいをおもちの方による講話や交流 ・ 名寄商工会議所や地域の職業人を招いた職業講話 ・ 栽培活動でのゲストティーチャー ・ JA や地域住民の方による地域の特産物についての講話 ・ 地域コーディネーターによる地域の歴史等の講話 ・ 助産師による「いのちの授業」 ・ 地域住民との花壇整備 ・ 地域住民との交通安全啓発活動 ・ 地域住民との合同運動会や合同学芸会、雪と灯りの集い ・ 地域老人宅の除雪ボランティア ・ 地域の敬老会における合唱披露等交流 ・ 老人クラブの訪問・交流 ・ 保育園・幼稚園児との交流
地域の教育資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲作体験（田植え、稲刈り等） ・ 北国博物館での学習 ・ 「なよろ市立天文台きたすばる」での学習 ・ カーリング体験 ・ 生活科や社会科での地域のお店探検や施設訪問（ごみ処理場等）
異校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校教諭による小学校への乗り入れ授業（図工、英語等） ・ 保・小・中合同の運動会 ・ 高校生との交流 ・ 名寄市立大学の学生との交流

令和5年度 教育経営の充実に関する研究グループ 第1回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年5月15日（月）15：15～16：00
- (2) 場 所：名寄市民文化センター（営農研修室）
- (3) 参加者：主 任：小林 勝彦 校長（東中） 副 主 任：軽部 恭子 校長（西小）
研究主任：長井 香征 教頭（名小） 研究副主任：小林 良光 教頭（智小）
研究委員：松本 敏朗 校長（中名寄小） 西岡 裕英 校長（智中）

2 活動内容

- (1) 研究内容の確認
 - 名寄市教育推進計画と直結した学校経営計画の作成
 - 社会に開かれた教育課程の具体的取組
 - 令和5年度名寄市教育行政執行方針に基づいた学校経営計画用フォーマットの作成
- (2) 確認事項・改善の方向性
 - 「Ⅱ 中期ビジョン」→削除（短いスパンで改善を図る）
取組の重点→コンパクト化（各校課題に対する取組をしぼり、改善に総力をあげる）
 - 「Ⅱ 3 指導の基本方針」→削除（重複する部分がある）
 - 「Ⅲ 2 年度の重点経営方針」→変更：「年度の経営の重点」
 - 「Ⅲ 3 年度の指導の重点」→ 変更：「年度の取組の重点」
 - 上記「取組の重点」に「知・徳・体」の項目を設ける。
 - 基本的な骨格を示したフォーマットを作成し、肉付けを各校で行う。
 - 校長が示した経営方針を基に、各分掌で方策を講じて肉付けする形が望ましいのではないか。（ミドルリーダーとしての意識をもたせ、主体的に学校運営に携わらせる）

3 次回の活動予定

- 【第2回研究グループ会議】（6／20）
 - 原案をもとにした協議（主に章立ての検討）
 - C4thを活用し、各章・各項目内容の精査（～9月）
 - フォーマットの完成、各学校への配付予定（10／2）
- 【その他】
 - 6月第1週までに原案作成→C4thで委員に配付→意見集約

令和5年度 教育経営の充実に関する研究グループ 第2回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年6月26日（月）15：15～16：00
- (2) 場 所：名寄市立名寄西小学校
- (3) 参加者：主 任：小林 勝彦 校長（東中） 副 主 任：軽部 恭子 校長（西小）
研究主任：長井 香征 教頭（名小） 研究副主任：小林 良光 教頭（智小）
研究委員：松本 敏朗 校長（中名寄小） 西岡 裕英 校長（智中）

2 活動内容

- (1) 新学校経営計画作成の方向性及び内容の決定
 - 名寄市学校教育推進計画を学校経営計画の巻頭に参考資料として掲載（道教委・名寄市教委の方針を踏まえて作成していることを示す）
 - 各校の特色ある経営方針を表現しやすい形とする。
 - 学校経営計画の項目
 - I 本校の教育目標
 - II 経営の基本方針
 - 各校長の経営の思いを端的に記載
 - III（本校で）育成を目指す資質・能力の重点
 - 1) 学校として育成を目指す資質・能力の重点
教職員と課題意識を共有して設定
(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度の3観点)
 - 2) 育成を目指す資質・能力の重点と学校の教育目標の関係 ※必要に応じて設定
育成を目指す資質・能力（3観点）と知・徳・体の関係をマトリクスで表す。
※（2）を省く場合は、IIIを「本校で育成を目指す…」とする
 - IV 本年度の学校経営
 - 1 年度の重点教育目標
 - 1) 地域の状況
 - 2) 保護者の状況
 - 3) 子どもの状況} 各校の実態に応じて記述
 - <本年度の重点教育目標>
育成を目指す資質・能力の3観点から目標を設定
- 2 本年度の重点的な取組
 - 項目を絞り、焦点化を図る。
各項目5～7点程度の具体を記述（ナンバリングは自由）
 - 1) 教育課程（学習指導）
 - 2) 生徒指導（学年・学級経営）
 - 3) 特別支援教育

- 4) 学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）
- 5) 予算、教育環境整備

＜評価基準＞

項目ごとに3～5点を抽出し、評価基準を設ける。

V 本校の取組の評価（学校関係者評価）

- 1) 知識・技能
- 2) 思考力・判断力・表現力等
- 3) 主体的に学習に取り組む態度

(2) 新学校経営計画（記載例）の作成

- 原案をもとに記載例（小学校版・中学校版）を作成する。
- 特色ある経営方針を表現しやすくするため、項目の例示を最小限にする。

3 次回の活動予定

【第3回経営グループ会議】（9/11（月）15:00～）

※場所については、後日決定、案内

○記載例（小学校版・中学校版）をもとにした協議

○小学校版：軽部校長先生が作成

○中学校版：小林校長先生・西岡校長先生が作成

【その他】

○8月末までに記載例（案）を作成

○フォーマット・記載例の完成、各学校への配付予定（10/2）

令和5年度 教育経営の充実に関する研究グループ 第3回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年9月11日（月）15：15～16：30
- (2) 場 所：名寄市立名寄西小学校
- (3) 参加者：主 任：小林 勝彦 校長（東中） 副 主 任：軽部 恭子 校長（西小）
研究主任：長井 香征 教頭（名小） 研究副主任：小林 良光 教頭（智小）
研究委員：松本 敏朗 校長（中名寄小） 西岡 裕英 校長（智中）
アドバイザー：馬場 泰栄 参事（名寄市教育委員会）

2 活動内容

(1) 新学校経営計画フォーマット及び記載例の修正

小学校版（軽部校長提案）

中学校版（西岡校長提案）

【学校経営計画の項目・記載内容】

※名寄市学校教育推進計画（全ページ）を巻頭に掲載

I 本校の教育目標

○教育目標に関する記述事項があれば記述

○校訓や合い言葉、関連する記述事項があれば記述

II 経営の基本方針

○各校長の経営への思いを端的に記載

○キャッチフレーズでもよい（必要に応じて説明を記述）

III 育成を目指す資質・能力の重点

1 学校として育成を目指す資質・能力の重点

○知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度の3観点で記述

○重点を毎年変更するのではなく、3年おき程度で見直しを図ることが望ましい

2 育成を目指す資質・能力の重点と学校の教育目標の関係

○育成を目指す資質・能力（3観点）と知・徳・体の関係をマトリクスで表示

※学校教育目標を、育成を目指す資質・能力で示している場合は不要

IV 本年度の学校経営

1 年度の重点教育目標

1) 地域の状況

2) 保護者の状況

3) 子どもの状況

} 各校の実態に応じて端的に記述

(文章、箇条書き、課題の記載など、各学校裁量)

<本年度の重点教育目標>

○「学校として育成を目指す資質・能力の重点（Ⅲ－1）」を踏まえて設定

○キャッチフレーズで示す、根幹等の記述を加えるなどもよい

- 2 本年度の重点的な取組
項目を絞り、焦点化を図る。
各項目3～6点程度の具体を記述し、担当分掌を明示
- 1) 教育課程（学習指導）
- 2) 生徒指導（学年・学年経営）
- 3) 特別支援教育
- 4) 学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）
- 5) 予算、教育環境整備

<評価基準>

取組の具体を踏まえ、数点の評価基準（自校の学校評価より）を設定
評価方法、数値目標を記述

V 本校の学校経営の評価

※自己評価は、<評価基準>（IV-2）より転記

- 1 本年度の重点的な取組（1）教育課程（学習指導）の自己評価
- 2 本年度の重点的な取組（1）教育課程（学習指導）の学校評価者評価
- 3 本年度の重点的な取組（2）生徒指導（学年・学年経営）の自己評価
- 4 本年度の重点的な取組（2）生徒指導（学年・学年経営）の学校評価者評価
- 5 本年度の重点的な取組（3）特別支援教育の自己評価
- 6 本年度の重点的な取組（3）特別支援教育の学校評価者評価
- 7 本年度の重点的な取組（4）学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）の自己評価
- 8 本年度の重点的な取組（5）学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）の学校評価者評価
- 9 本年度の重点的な取組（5）予算、教育環境整備の自己評価
- 10 本年度の重点的な取組（5）予算、教育環境整備の学校評価者評価

（2）新学年経営計画の作成

○新学校経営計画に基づき、学年経営計画のフォーマットを作成する。

○担当：長井教頭・小林教頭

（3）今後の日程

- ～ 9/19（火）新学校経営計画フォーマット・記載例の修正
- 9/26（火）R6 学校経営計画フォーマット・記載例の報告（定例校長会）
- 10/2（月）R6 学校経営計画フォーマット・記載例の配付
- ～ 10/20（金）新学年経営計画フォーマット（案）の作成
- 11/17（金）R6 学年経営計画フォーマット（案）の修正（経営G会議）
- ～ 11/22（水）R6 学年経営計画フォーマット（案）のグループ内完成
- 11月下旬 R6 学年経営計画フォーマット（案）の修正（研究G会議）
- 2月上旬 R6 学年経営計画フォーマットの完成、配付

3 次回の活動予定

【第4回経営グループ会議】（11/17（金）15:00～名寄小学校 会議室）

○新学年経営計画フォーマットの修正

令和5年度 学校力向上に関する総合実践事業 名寄市地域協議会 教育経営の充実に関する研究グループ 第4回顛末

1 日時・場所・参加者

- (1) 日 時：令和5年11月17日（金）15：00～16：00
- (2) 場 所：名寄市立名寄小学校
- (3) 助言者：北海道教育庁上川教育局義務教育指導官 佐藤 忍 様
北海道教育庁上川教育局主任指導主事 小野 晴子 様
- (4) 参加者：主 任：小林 勝彦 校長（東中） 副 主 任：軽部 恭子 校長（西小）
研究主任：長井 香征 教頭（名小）
研究委員：松本 敏朗 校長（中名寄小） 西岡 裕英 校長（智中）
アドバイザー：馬場 泰栄 参事（名寄市教育委員会）

2 活動内容

(1) 新版学年経営案フォーマット及び作成例の検討

小学校・中学校共通フォーマット（軽部校長提案）

学年経営案作成例（軽部校長提案）

<学年経営案の項目・記載内容>

I 学年目標

- 「学校の教育目標」「育成を目指す資質・能力の重点」「本年度の重点目標」を学校経営計画より転記
- 「学年の教育目標」を年度末に目指す具体的な子どもの姿をイメージして記載
「本年度の重点教育目標」「Ⅱ学年の実態」の両方向より矢印

II 学年の実態

- 「学習面」「体力面」「生活面」に分けて記載
- 「その他」に、特別支援学級児童、要配慮児童について必要な情報を記載
- 後期の作成時に、実態を見直して修正
(修正部分を見え消し線で消し、追記を青字で記載)

III 「本年度の重点的な取組」を実現するための「具体的な手立て」とその「成果と課題（改善策）」

- 学校経営計画の「本年度の重点的な取組」（1）～（5）から各1点を絞り、実現するための具体的な手立てを記載
- 「具体的な手立て」による学年の達成状況を「○：達成、△：未達成」で評価
- 達成状況を踏まえ、成果、課題を文章で記載
- 後期は、前期の評価を踏まえて記載

(2) その他確認事項

<新版学年経営案フォーマットについて意見集約>

- 上記フォーマットについて、教育改善プロジェクト教育研究（研修）グループから意見を聞く機会を設定
- 次年度の学年経営案作成に向けて、各校教務主任を対象とした説明会の実施を検討

<新版学年経営案作成時の留意点>

- 新の第1回参観日までに作成
（「学年の教育目標」「学年の実態」「具体的な手立て（1）（2）（5）」）
- 「学年の実態」（2～6年）は、前年度学級担任が記載
- 経営案作成後、管理職に指導を受ける場を設けることを推奨

（3）指導・助言

<新版学校経営計画、学年経営案について>

- 校長が各校の実態・課題を正確に把握した上で、学校教育目標及び経営ビジョンを明確に打ち出し、教職員に理解させることが大前提となる。
- こうした作成のプロセスは、若い教職員が経営案の意味付けを考えるよい機会となる。
- 学年経営案の作成を通して、PDCAサイクルを教職員に意識付けしようとしているところがすばらしい。
- 作成することを目的とせず、どこに向かいどんな子どもを育成するのかをしっかりと定めている経営計画、経営案としてほしい。

（4）今後の日程

- ～12/22（金）グループ活動報告まとめ提出
- R6 1/12（金）名寄市教育研究所 プレゼンデータ・集会資料提出
1月中旬 答申
- 1/22（月）名寄市教育研究集会前日準備・発表リハーサル
- 1/23（火）名寄市教育研究集会

3 次回の活動予定

<名寄市教育研究集会プレゼンについて>

- 12月下旬～1月上旬 書面
- プレゼンデータ及びプレゼン内容について検討